

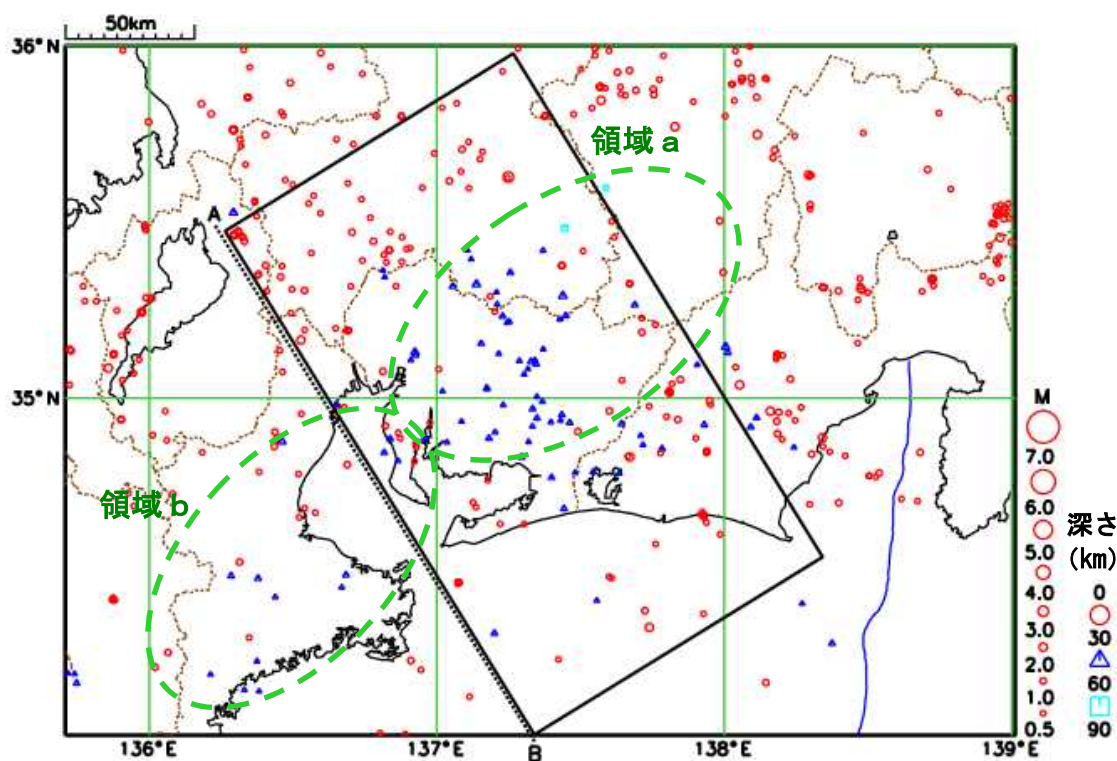
愛知県地震概況

令和4年（2022年）5月

この資料は速報であり、後日の調査で修正することがあります。

〇概況

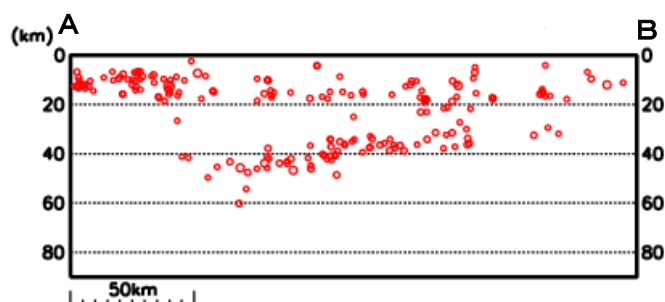
1. 愛知県内で震度1以上を観測した地震の状況
5月に愛知県内で震度1以上を観測した地震が1回発生しました。
2. 愛知県内や愛知県周辺で発生した主な地震
今期間、特に目立った地震活動はありませんでした。
3. 深部低周波地震の活動状況
 - ・ 東海（領域a）
（特段の活動はなかった）
 - ・ 紀伊半島北部（領域b）
2～3日、5日、12日、15～16日、18～28日、30～31日



震央分布図（2022年5月1日～31日 深さ0～90km M≥0.5）

深部低周波地震（微動）

深部低周波地震の震央は震源決定精度が高くないため、地震が発生した領域を破線で表示しています。（注）Mはマグニチュード（地震の規模）の略です。



左の断面図は、震央分布図中の斜めの四角形内の震源を、A-Bに沿って置いたスクリーンに投影する形でプロットしたものです。深さ25km程度までの浅い震源の分布域は、陸側プレートの地殻内の活動によるものです。

〇県内で震度 1 以上を観測した地震

京都府南部（1 頁目震央分布図領域外）

5 月 2 日 22 時 21 分に京都府南部で発生した M4.4 の地震（深さ 13km）により京都府で震度 4 を観測したほか、長野県から中国地方にかけて震度 3～1 を観測しました。愛知県では、一宮市、豊田市、愛西市などで震度 1 を観測しました（図 1）。

この地震の発震機構は、東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型（図 3）で、地殻内で発生しました。今回の地震の震源周辺（領域 a）では、2022 年 3 月 31 日から地震活動が活発となり、このうち M4.0 以上の地震は 4 回発生しています（図 2、4）。

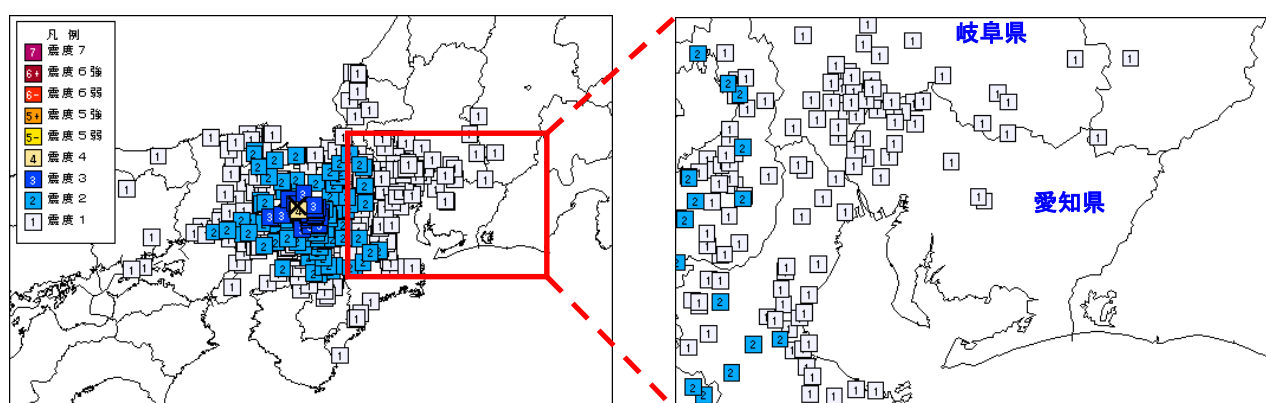


図 1 5 月 2 日 22 時 21 分 M4.4 震度分布図（観測点別、×：震央、左図広域図、右図詳細図）

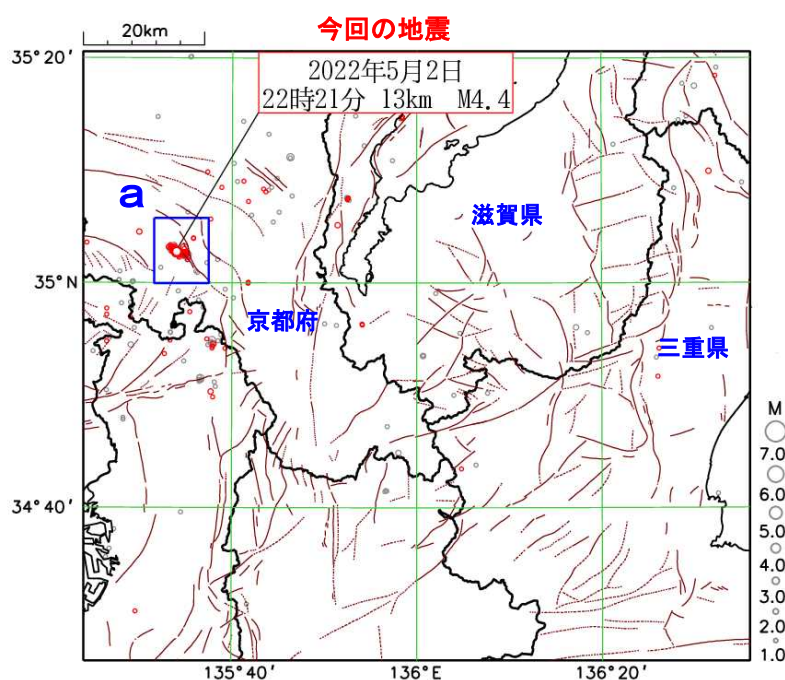


図 2 震央分布図
(2022 年 2 月 1 日～2022 年 5 月 31 日
深さ 0～20km M≥1.0)

※2022 年 5 月の地震を赤で表示

茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

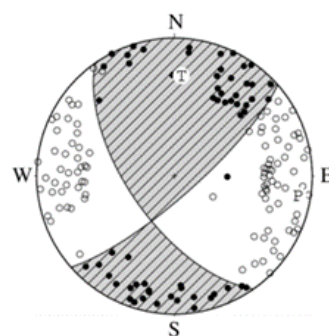


図 3 下半球等積投影
初動発震機構解
5 月 2 日 22 時 21 分 (M4.4)

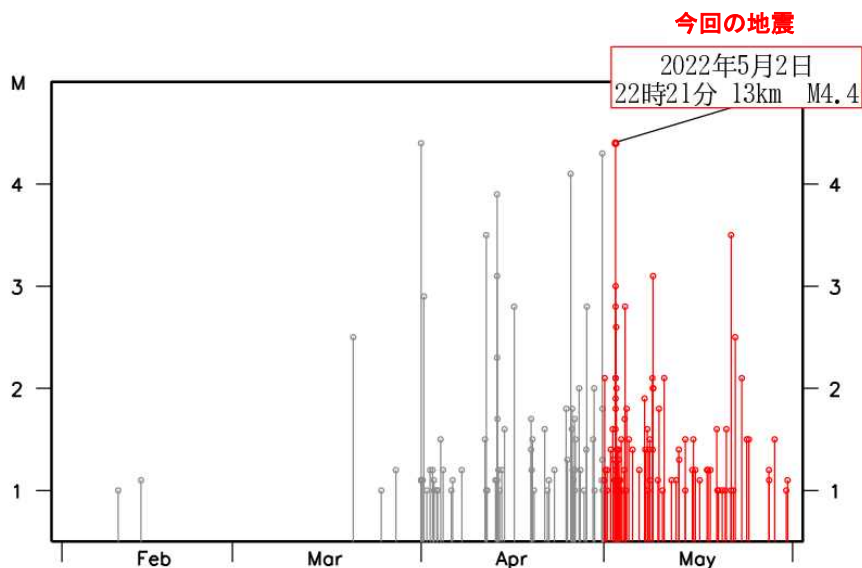


図4 領域a内の地震活動経過図

○震度1以上を観測した地震の表（愛知県）

震源時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度					
2022年05月02日22時21分	京都府南部	35° 02.7' N	135° 34.0' E	13km	M4.4
愛知県	震度 1：一宮市千秋, 一宮市木曾川町*, 豊田市大洞町, 豊田市小坂町*, 豊田市長興寺*, 犬山市五郎丸*, 愛知江南市赤童子町*, 小牧市安田町*, 稲沢市祖父江町*, 扶桑町高雄*, 蟹江町蟹江本町*, 愛西市石田町*, 愛西市江西町*, 愛西市諏訪町*, 清須市春日振形*, あま市甚目寺*, 長久手市岩作城の内*				

（注 *印の地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。）

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※本資料中で使用している地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

※地震関係の資料・情報は、名古屋地方気象台のホームページ『<https://www.data.jma.go.jp/nagoya/index.html>』からも随時ご覧になれますので、あわせてご利用下さい。

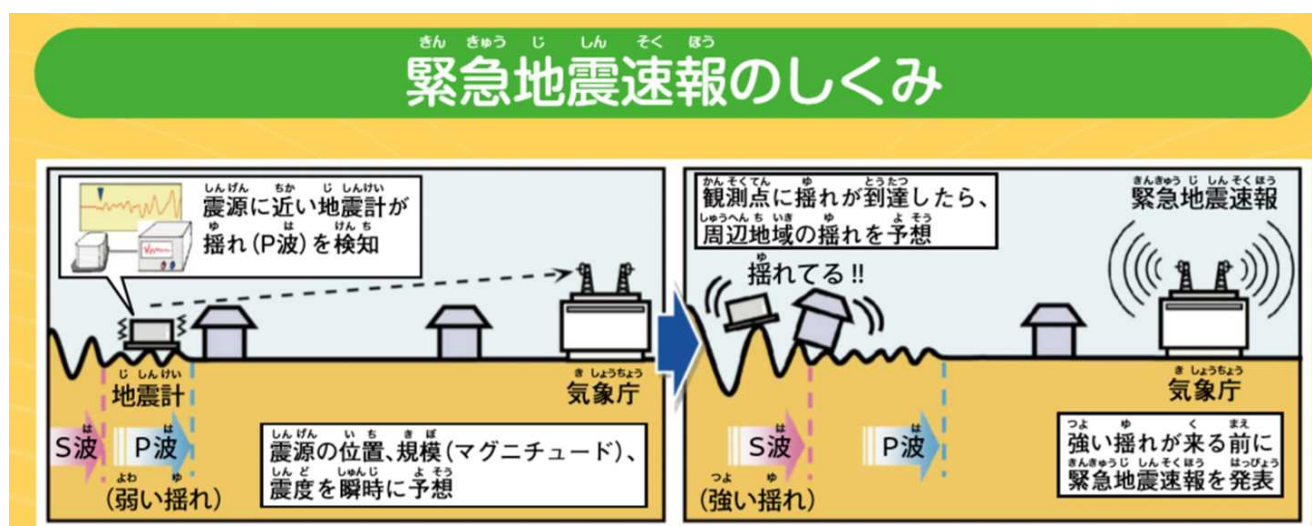
※2020年9月以降に発生した地震を含む図については、2020年8月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、新たな海域観測網観測データの活用等により、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがあります。

※この資料に関する問い合わせ先 名古屋地方気象台地震担当 電話 052-751-5124（平日9-17時）

緊急地震速報について

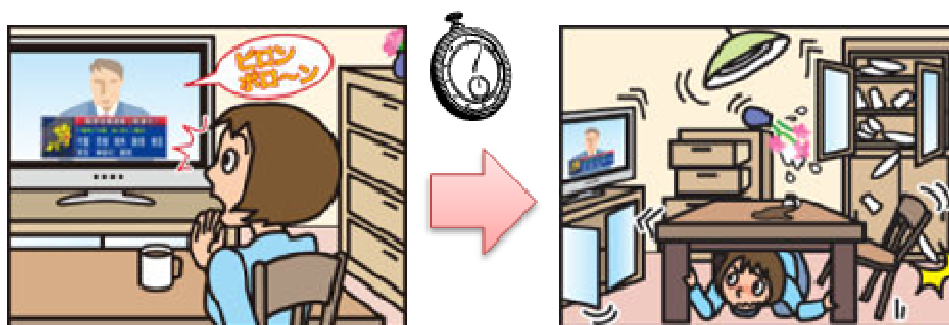
緊急地震速報は、地震の発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り素早く知らせる情報のことです。強い揺れの前に、自らの身を守ったり、列車のスピードを落としたり、あるいは工場等で機械制御を行うなどの活用がなされています。

地震が発生すると、震源からは揺れが波となって地面を伝わっていきます（地震波）。地震波にはP波（Primary「最初の」の頭文字）とS波（Secondary「二番目の」の頭文字）があり、P波の方がS波より速く伝わる性質があります。一方、強い揺れによる被害をもたらすのは主に後から伝わってくるS波です。このため、地震波の伝わる速度の差を利用して、先に伝わるP波を検知した段階でS波が伝わってくる前に危険が迫っていることを知らせることが可能になります。



緊急地震速報は、地震が発生してから、その揺れを検知し、解析して発表する情報です。

一般に、緊急地震速報を発表してから強い揺れが到達するまでの時間は、数秒から長くても数十秒程度と極めて短く、場合によっては緊急地震速報が強い揺れの到達に間に合わないことがあります。



強い揺れまでの時間はわずかしかありません
まわりの人に声をかけながら あわてず、まず身を守りましょう!!

(参考) 政府インターネットテレビ: 緊急地震速報～その時どう動く? 「数秒間の心がまえ」
<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg24210.html>